



◆ 緊急地震速報配信システムの更新整備について

当センターの緊急地震速報配信システムは、気象庁が高度利用者向けに緊急地震速報の提供を開始した平成18年8月から運用を開始し、既に4年半を経過しました。運用開始時の接続回線数は、10回線ほどでしたが、平成22年11月現在では約100回線となっております。運用開始からこれまで、一度も障害等による配信停止も起こさず順調に緊急地震速報の配信を続けてきました。

この度、① 気象庁庁舎の虎ノ門への移転が平成26年度末に延期され、それまで当該システムを維持することは、保守部品の供給等が困難なこと、② 緊急地震速報がXMLフォーマットで提供されることなどの理由により緊急地震速報配信システムを更新整備することとしました。

新しいシステムは、これまでの緊急地震速報配信のノウハウを生かし、2系統のサーバーを並行稼働させ、より早く、かつ確実な配信を行う方式を踏襲し、さらに今後、増加する利用者に柔軟に対応できるよう、高性能な最新の配信サーバーを導入することとしました。

現在、受注メーカーの工場ではシステムの構築と追加ソフトウェアの制作を行っており、平成23年2月中旬に当センターへ設置後、各種確認試験を実施し、慣熟運用を経てから、緊急地震速報のXMLフォーマットの運用開始までに本運用へ移行する計画です。現在、稼働中のシステムは、平成23年6月まで新システムと並行運用を行い、順次利用者回線を切り替えて同年7月からは全て新システムでの運用となる予定です。

(財団法人気象業務支援センター配信事業部長 加藤芳夫)